「**極める**」に期待します！

今年度も残すところ、あと一、二カ月となりました。どの学級も生徒会では「クラスでやり切り、鬼退治しよう！」と銘打って、各学級ごとに決めた内容をやり切る取り組みを二月から始めます。

二階のフロアには、各学級が独自で決めたやり切る内容が掲示として準備されています。どの学級も現状を考えて、何を高めればよいのかを真剣に決めたようです。そんな中、私はある学級の取り組む内容、いや、正確に言うと、取り組む意気込みに、一つの言葉を通して注目しました。

それは三年Ａ組です。三年Ａ組の掲示には次のように書かれています。

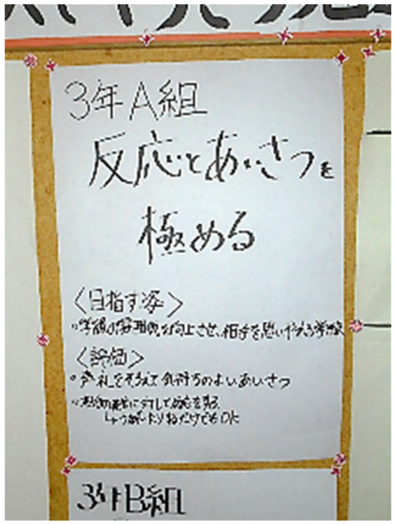
「反応とあいさつを**極める**」

私は、この「極める」という言葉に注目しました。そして、その言葉を取り入れたことに、三年Ａ組の「最高のものを求めるぞ」という強い意志を感じました。

「がんばる」という言葉と比べて考えるとわかりやすいと思います。「反応とあいさつを**がんばる**」「反応とあいさつを**極める**」どちらも努力するという点では同じです。前向きな姿勢を感じさせる言葉です。しかし、「イコール」ではありません。「がんばる」という言葉には行き着くところがありませんが、「極める」には行き着くところがあります。それは「最高」と呼べるレベルです。

めざすものがはっきりしていない状態で、努力を積み重ねるのは「がんばる」。目指すものがはっきり見えていて、努力を積み重ね到達することが「極める」です。三年Ａ組には、具体的に「目指すもの」をイメージして取り組んでほしいと期待しています。

とりわけ反応には、大きな期待を寄せています。なぜなら、卒業を一ヶ月後に控え、言いたいことが言える信頼感、言いたいことを受け止めてくれる寛大さが反応に表れると考えるからです。「言いたいこと」というと構えてしまいそうですが、理解できないときに「わかりません」「もう一度言ってもらえますか」などと、自分を偽らずに出せることだと私は思います。わからないのに「わかりました」と言うことは自分を偽ることになり、卒業を前にした学級としては寂しいことですからね。

「がんばる」のだったらここまでの期待はしません。「極める」という言葉を選んだ三年Ａ組だからこそ、また、卒業を前にした学級だからこそ、私の中に期待が生まれました。泣いても笑っても学級で取り組む最後かな。どうせやるなら、最高を目指してほしいなあ！

（一月二十一日 記）